

---

 ニ ュ ー ス
 

---

## 日本の火山活動概況 (2012年5月～6月)

気 象 庁



図 1. 2012年5月～6月に目立った活動があった火山

### 十勝岳 (43° 25′ 05″N, 142° 41′ 11″E)

6月30日19時35分頃から大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測され、7月1日未明にかけて次第に強まりながら継続した。その後、7月1日～4日の夜間にも観測されたが、明るく見える領域は次第に小さくなった。この現象は、高温の火山ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定される。これらの現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はなかった。

地震活動は概ね低調に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張を示す地殻変動は現在も続いている。

### 三宅島 (34° 05′ 37″N, 139° 31′ 34″E)

噴煙高度は火口縁上100～300mで経過した。

5月17日に実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり400トン(前期間:4月9日700トン、4月19日500

トン)と、やや多量の火山ガス放出が続いている。また、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。6月28日09時40分に火口付近を震源とするやや大きいA型地震が発生し、三宅島着で震度1を観測したが、前後で地震活動に変化は見られなかった。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS連続観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続している。島の南北を挟む基線では、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられている。

### 硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

4月下旬から火山活動が活発化し、国土地理院の地殻変動観測では、4月27日から28日にかけて急速な隆起の後、沈降を観測したが、5月以降その傾向は次第に鈍化し、ほぼ停滞している。また、火山性地震も4月27日以降増加し、29日からは火山性微動も増加したが、5月に入って回数は次第に減少し、火山性微動は5月4日以降観測されていない。

海上保安庁によると、5月16日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、4月29日に島の北東沖で確認された変色水は継続しているものの、当初の広がり比べて狭くなっていることが確認された。

また、海上自衛隊の協力で5月23日から24日に実施した現地調査では、島北部の為八海岸の崖の一部に新しい崩落箇所があり、そこからごく少量の噴気が上がっていることを確認した。赤外熱映像装置の観測では、崩落場所の海岸付近から“北の鼻”にかけての沿岸に高温域が分布しており、さらに、同海岸の沖数100m付近の海面で、3箇所ほど白色の変色水が湧昇しているのを確認した。島東部の離岸温泉跡では、前々回(2011年11月)、前回(2012年3月)の現地調査結果と比較して、隆起により海岸線が後退して拡大したと思われる砂浜に湯だまりがあり、周辺の噴気量も前回と比較して多く立ち上っていることを確認した。

これら、島北部(北の鼻・為八海岸)、島東部(離岸温泉跡)で確認された現象は、4月下旬から5月初めにかけた火山活動が活発化によるものと推定される。

### 福德岡ノ場 (24° 17.1' N, 141° 28.9' E)

5月11日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場の火山活動によるとみられる湧出点付近から、幅約50m、長さ約150mの楕円形状で乳白色の変色水域が確認された。また、同海域から南西方向に幅約50~150m、長さ約1500mにわたって、薄青色の変色水が確認された。16日にも湧出点付近でわずかな薄白色の変色水が確認された。

6月13日に第三管区海上保安本部が、15日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、同海域で、僅かな薄青白色の変色水が確認された。25日に第三管区海上保安本部が実施した観測では、直径50~60m程度の青白色の変色水が確認された。

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測でも、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

### 阿蘇山 (32° 53' 01" N, 131° 05' 49" E)

噴煙活動は低調で、白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上がった。

湯だまり量は5月22日の観測までは8割を維持していたが、5月29日の観測で6割に減少し、6月中旬には3割となった。しかし、6月下旬には6月15日以降の大雨の影響で7割に増加した。赤外線映像装置の観測では、湯だまりの表面温度は63~73℃で大きな変化はなかった。湯だまりの中央付近では噴湯現象を確認した。

南側火口壁の最高温度は228~267℃で大きな変化はなく、南側火口壁の温度分布も特段の変化はなかった。

夜間に実施した観測(期間中4回実施)では、南側火口壁の一部に赤熱現象を確認したが、領域に特段の変化はなかった。

孤立型微動の月回数は5月が349回、6月が621回、火山性地震の月回数は5月が312回、6月が369回で、ともに少ない状態で経過したが、2012年2月頃からわずかながら増加傾向を示している。震源は、中岳第一火口付近のごく浅いところに分布した。また、継続時間の短い火山性微動が5月と6月にそれぞれ4回発生し、継続時間の月合計はともに2分であった。

### 霧島山(新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))

新燃岳では、今期間、噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上100mまで上がった。

4月18日に、海上自衛隊第72空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、前回(3月13日)と比較して、火口内に蓄積された溶岩の大きさ(直

径約600m)や形状及び周辺の噴気の状況には変化がなかった。また、前回と比較して地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺部が比較的高温であった。一方、西側斜面の割れ目では、噴気は確認できず、前回の調査と同様にやや温度の高い部分が認められた。

火山性地震の月回数は、5月が82回、6月が23回で3月(368回)や4月(356回)とくらべて減少している。震源はこれまでと同様に、主に新燃岳付近の海拔下0~3kmに分布した。

火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月初め頃から鈍化した。2012年1月以降はほぼ停滞していたが、「えびの」-「牧園」基線では5月頃からわずかに縮みの傾向が見られる。

新燃岳周辺のGPS連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

6月14日に実施したCOMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり100トンと少ない状態であった。

### 桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は5月が89回(そのうち爆発的噴火は64回)、6月は73回(そのうち爆発的噴火は51回)であった。大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達した爆発的噴火は、5月に4回、6月には発生しなかった。このうち、5月23日14時54分及び24日04時29分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上3,500mまで上がった。噴煙が3,000m以上に達したのは2011年4月4日以来であった。また、ごく小規模な火砕流が、21日03時42分に発生し、東へ約300m流下した。火砕流の発生は、3月22日以来である。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、時々ごく小規模な噴火が発生した。噴煙の最高高度は、火口縁上400mであった。また、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は、一時的にやや増加した期間があったものの、概ね少ない状態で経過した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中5回実施)では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり1,800~3,600トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2011年11月頃から山体がわずかに隆起する傾向

が続いていたが、2012年2月以降、停滞している。

GPS連続観測では、2011年9月頃から桜島島内のわずかな伸びの傾向が続いていたが、2012年2月頃から鈍化している。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島地方気象台での観測では、5月20日09時～翌21日09時の24時間に733g/m<sup>2</sup>の降灰を観測し、5月の合計は1,658g/m<sup>2</sup>（降灰日数13日）の降灰を観測した。これらは、鹿児島地方気象台が1994年2月に東郡元に移転して以来、降灰量としては最も多いものであった。

### 薩摩硫黄島（30°47′35″N, 130°18′19″E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を1回観測した。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

### 口永良部島（30°26′36″N, 130°13′02″E）

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過した。新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上200m以下の高さで経過した。

GPS連続観測では、新岳を挟む基線で2010年9月から伸びの傾向が続いていたが、2011年9月から鈍化している。

5月10日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり20トンで、前回（1月12日：50トン、13日：100トン）の調査と比較して減少した。

5月11日に実施した現地調査では、前回（2011年12月）と比較して火口内の形状等に特段の変化はなかった。新岳火口内及びその周辺の地表面温度分布に特段の変化はなかった。

### 諏訪之瀬島（29°38′18″N, 129°42′50″E（御岳））

御岳火口では、爆発的噴火は発生しなかったが、6月11日と13～14日にごく小規模な噴火が発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、11日と13～14日に島内の集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認された。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震の月回数 は5月：11回、6月：21回であった。B型地震の月回数 は5月：205回、6月：116回とやや減少した。

6月13～16日、20～22日に火山性連続微動が発生し、

火山性微動の継続時間の月合計は132時間24分（5月：40時間11分）と増加した。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

（文責：気象庁地震火山部火山課 齋藤直子）

## ○人事公募

【地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）】

### 1. 採用試験について（地質研究所のみ）

- (1) 採用予定数 2名（地熱・温泉資源の評価、熱水利用、及び地質災害に関する調査研究）
- (2) 受付期間 平成24年6月29日（金）まで〔郵送の場合は消印有効〕
- (3) 第1次試験日 平成24年7月22日（日）
- (4) 試験地 札幌市

### 2. 採用募集要項等について

下記のサイトから該当のファイルをダウンロードしてください。

<http://www.hro.or.jp/information/information/20120606855.html>

試験内容や時間、出題分野などが記載されています。試験区分：環境・地質（地質）

求める人材：地球科学の分野全般の基礎知識を有する者。

1名：地熱・温泉資源の評価と熱水利用：[地球化学及び火山熱水システム]に関する専門知識を有する者。

1名：地質災害：[堆積学及び層序学]に関する専門知識を有する者。

受験資格：昭和58年4月2日以降に生まれた者で修士課程修了以上の者又は修士課程修了者と同等の能力を有すると認められる者

お問い合わせ先：地方独立行政法人北海道立総合研究機構本部経営企画部経営企画グループ

（電話 011-747-0055）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月8日送信しました）

## 【京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻】

1. 職種・人員：京都大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻地球物理学分野

固体地球物理学講座 助教・1名

2. 公募分野：広い意味での固体地球物理学に関連する研究分野
3. 応募資格および条件：
  - (1) 着任時に博士の学位を有すること
  - (2) 学部および大学院の教育に意欲的に取り組むこと
  - (3) 固体地球物理学講座をはじめ地球惑星科学専攻の教員と協力し研究を推進すること
  - (4) 地球惑星科学専攻の運営に積極的に参加すること
4. 勤務地：京都市左京区北白川追分町  
京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
5. 着任時期：可能な限り早い時期
6. 応募書類：
  - (1) 履歴書
  - (2) これまでの研究経過（2000字程度）
  - (3) 研究業績目録
    - A. 査読のある論文および総説
    - B. 査読のない論文および総説
    - C. 著書
    - D. その他の出版物で特に参考となるもの
  - (4) 主な論文の別刷りまたは著書3編以内（複写可）
  - (5) (4)の各論文・著書についての内容と意義を、A4用紙1枚ずつにまとめたもの
  - (6) 今後の教育および研究の計画と抱負（2000字程度）
  - (7) 応募者について意見を述べる事ができる方2名の氏名および連絡先
7. 応募締切：平成24年8月31日（金）〔必着〕  
封書に教員公募と朱書きし、簡易書留にて郵送すること。なお応募書類は返却しません。
8. 面接：選考段階で、面接または講演をお願いすることがあります。
9. 書類の送付先及び問い合わせ先：  
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻  
専攻長 余田成男  
電話：075-753-3932 E-mail：yoden@kugi.kyoto-u.ac.jp  
なお、公募に関する詳細は、  
<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/news/pdf/koubo120626.pdf>  
を、また、本専攻に関する詳細は、  
地球物理学分野基幹講座のホームページ  
<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/>  
地球惑星科学専攻のホームページ  
<http://www.eps.sci.kyoto-u.ac.jp/>  
をご覧ください。  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月28

日送信しました)

#### 【東北大学大学院理学研究科地学専攻】

1. 所属：東北大学大学院 理学研究科 地学専攻
2. 職名および人員：助教1名
3. 専門分野：火山学・地質流体研究分野
4. 応募資格：
  - (1) 博士の学位を有する方
  - (2) 実験的手法に基づいた、火山噴火機構に関する研究業績、および実験手法の開発実績と競争的資金の獲得実績を十分に有し、下記の職務に意欲的に取り組める方。
5. 職務内容：
  - (1) 中村美千彦教授と連携し、火山学・地質流体研究分野の先端的研究を推進するとともに、学生の教育指導を行う。地学専攻の他の教員との連携研究にも取り組む。
  - (2) 東北大学における地球科学関連分野の教育を分担する。学部学生、大学院生のための実習や演習の実施、学部・大学院生への教育指導を行う。
  - (3) 地学専攻設置機器類の取り扱い指導、その他専攻の運営に関わる職務を行う。
6. 着任時期：採用決定後なるべく早い時期
7. 公募締め切り：平成24年8月15日（水）（必着）
8. 提出書類：
  - (1) 履歴書（写真添付、Eメールアドレス記入）
  - (2) 業績目録および代表的論文5編までの別刷り（コピー可）
  - (3) 現在までの研究業績の概要（A4で2枚以内）
  - (4) 着任後の教育および研究に関する抱負（それぞれA4で1枚以内）
  - (5) 獲得した研究助成金（名称、年度、課題名、金額、代表・分担別）
  - (6) 応募者についてご意見をいただける方2名のご氏名とご連絡先（Eメールアドレス含む）
9. 書類提出先：  
〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室  
「火山学・地質流体研究分野助教 応募書類在中」と朱書きし、簡易書留とすること。応募書類は、原則として返却いたしません。
10. 問い合わせ先：  
東北大学大学院理学研究科 地学専攻 地球惑星物質科学講座 中村美千彦  
(TEL：022-795-7762；E-mail：nakamm@m.tohoku.ac.jp)
11. 付記：

選考の過程で、面接を行う場合があります。ただし、旅費は原則的に応募者の負担とします。個人情報保護のため、応募書類に記載された個人情報は、選考及び採用以外の目的には使用しません。また、応募の秘密は厳守します。

東北大学は、男女共同参画を推進しています。子育て支援の詳細等、男女共同参画の取り組みについては以下の URL をご覧ください。

(URL : <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/>)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月12日送信しました)

#### 【京都大学防災研究所火山活動研究センター】

##### 公募要項

1. 公募人員：准教授 1名
2. 所 属：地震・火山研究グループ 火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域
3. 研究内容等：
 

爆発的な様式で噴火活動を続ける桜島や関連した火山をテストフィールドとした地球物理学的手法に基づく火山観測により火山噴火予測を目指した研究を行い、当研究所が中核となって行う国内外の研究機関等との共同研究を推進する。また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期：可能な限り早い時期
5. 勤務地：鹿児島県鹿児島市桜島横山町 1722-19  
桜島火山観測所
6. 応募資格：博士の学位を有すること。  
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
7. 提出書類：次の(1)～(6)各一式
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績一覧(査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに分けしたもの)
  - (3) 主要論文別刷(コピー可)5編
  - (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
  - (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと。また、教育についても言及すること)
  - (6) 推薦書(または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先)
8. 公募締切：平成24年10月17日(水)【必着】
9. 書類提出先：
 

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当  
事務室 気付

火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域 准教授候補者選考委員会 宛  
(封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること)

#### 10. 問い合わせ先：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当  
事務室 気付  
火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域  
准教授候補者選考委員会 宛  
e-mail : [apply\\_staff@dpr.kyoto-u.ac.jp](mailto:apply_staff@dpr.kyoto-u.ac.jp)  
(封書あるいは電子メールに限る)

#### 11. その他：

応募書類に含まれる個人情報は、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

詳細は京都大学防災研究所ホームページの職員公募欄を参照下さい。

<http://www.dpr.kyoto-u.ac.jp>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月18日送信しました)

#### 【京都大学大学院理学研究科】

1. 職種・人員：京都大学大学院理学研究科教授・1名
2. 専門分野：火山物理学分野
 

火山の活動や構造を、地震・地殻変動などの観測を通して総合的に理解する研究および教育を推進できる方

なお、理学研究科では、研究科附属施設の整備を進め、教育研究の高度化に資することとしてきた。本施設は、地球惑星科学専攻の一員として「水・熱フロー」をキーワードとした多目的野外観測拠点を形成し、活地球圏における物質とエネルギーの循環過程の理解を深めるとともに、京都キャンパスにおける地球熱学の基盤教育研究拠点を形成して若手研究者育成に努めてきた。これらの観点から、本施設が位置する九州地域の火山や熱的特性を活かした研究・教育や京都キャンパスでの教育・研究の進展に寄与できる方が望ましい。採用後は、理学研究科地球惑星科学専攻の教育・研究に従事する。
3. 応募資格および条件：
  - (1) 博士の学位を有すること
  - (2) 学部および大学院の教育に意欲的に取り組むこと
4. 着任地：
 

地球熱学研究施設火山研究センター(熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5280)

5. 着任時期：  
採用決定後、できるだけ早い時期
6. 任期  
なし
7. 応募書類：
- (1) 履歴書（氏名、生年月日、年齢、現住所、連絡先および e-mail、高校卒業から最終学歴まで、職歴、資格等、博士学位の名称・取得大学・取得年月日・論文名）
  - (2) 研究業績目録
    - A. 査読のある論文や総説
    - B. 査読のない論文や総説
    - C. 著書
    - D. その他の出版物等で特に参考となるもの
  - (3) 主な論文の別刷または著書 5 編以内（複写可）
  - (4) 上記 (3) の論文または著書について、内容と意義を A4 用紙 1 枚ずつにまとめたもの
  - (5) これまでの研究経過（2000 字程度）
  - (6) 今後の研究および教育についての計画と抱負（2000 字程度）
  - (7) 本人について参考意見を述べられる方 2 名の氏名・連絡先
8. 応募締切り：2012 年 10 月 1 日（月）必着  
封書に教員公募関係と明記し、簡易書留にて郵送すること  
なお応募書類は返却しません
9. 面接：  
選考過程で、選考委員会による候補者インタビューを実施することがあります
10. 書類の送付先および問い合わせ先：  
〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5280  
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター 鍵山 恒臣  
電話 0967-67-0022  
e-mail kagiyama@aso.vgs.kyoto-u.ac.jp  
施設の概要はホームページ <http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/> をご覧ください  
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 23 日送信しました）
- 【東京大学地震研究所】
1. 推薦者の資格：日本在住の、国立大学法人・公・私立大学及び国、公立研究機関の教授もしくは准教授またはこれに準ずる研究者
  2. 被推薦者の資格と人数：教授、准教授、助教、博士号取得後研究者もしくはそれらに相当する研究歴をもつ外国在住の研究者 若干名
3. 雇用期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日のうち 3ヶ月以上
4. 研究分野：地震・火山および関連諸分野
5. 推薦締切：平成 24 年 8 月 31 日（金）必着
6. 提出書類：
- 応募用紙（様式 1：推薦者が記入のこと） 1 部
  - 被推薦者の履歴書 1 部
  - 被推薦者の業績リスト 1 部
  - 被推薦者の研究歴（英語で 300-500 語程度） 1 部
  - 被推薦者の地震研滞在期間の研究計画（英語で 300-500 語程度） 1 部
7. 宛先及び問合せ：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所  
国際地震・火山研究推進室 佐竹健治  
Tel. 03-5841-0219  
電子メール：[intl-office@eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:intl-office@eri.u-tokyo.ac.jp)
8. 注意事項：「国際室外国人客員教員推薦応募書類在中」の旨を記し、書留郵便で送付するか、または電子メールに添付のファイルで送付すること。
9. 選考方法：東京大学地震研究所共同利用委員会が決定する。
10. 採否の決定通知：11 月末頃までに書面または電子メールにより通知する。  
【共同利用 HP：URL】  
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>  
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 1 日送信しました）
- 【京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室】
- 1) 採用職名：准教授 1 名
  - 2) 所属分科：地球物質科学分科
  - 3) 期待する教育・研究分野：岩石学  
専攻内の他の教員とも連携して教育・研究を推進できる方。  
学部・大学院教育では、岩石学関連の授業・偏光顕微鏡実習・野外調査実習を、全学共通教育では、地学関連の授業・実験を担当できる方。
  - 4) 応募資格：博士の学位を取得されている方
  - 5) 採用予定：平成 25 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期
  - 6) 必要書類
    - ① 履歴書
    - ② 業績目録（査読付き原著論文、紀要・報告など査読

のない原著論文、総説、書籍などに分ける)

- ③ 主要論文5編の別刷り(コピー)各1部  
各論文の内容について和文の解説(約400字)をつけること
  - ④ これまでの研究経過と研究成果の概要(約1000字)
  - ⑤ 教育実績の概要(1000字以内)
  - ⑥ 着任後の研究計画(約1000字)と教育についての抱負(約1000字)
  - ⑦ 最近10年間の競争的研究資金受領歴
- 7) 応募締切:平成24年10月1日(月)必着
- 8) 書類提出先および問い合わせ先:

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
 京都大学大学院理学研究科  
 地球惑星科学専攻 地質学鉱物学教室  
 教室主任 山路 敦  
 電話:075-753-4151 FAX:075-753-4189

注:封筒の表に「教員公募岩石学」と朱書し、郵送の場合は書留便として下さい。教室段階での選考結果については、確定次第本人に通知致します。なお、原則として応募書類は返却いたしません(返却をご希望される方は、その旨手紙に明記し、返信用封筒を同封して下さい)。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月1日送信しました)

【山口大学大学院理工学研究科】

- 1. 公募人員 教授、准教授または講師 1名  
(ポストに関しては、教育・研究業績に応じて審査・決定します)
- 2. 所 属 大学院理工学研究科地球科学分野(理学部地球圏システム科学科)  
山口県山口市吉田1677-1
- 3. 専門分野 地球科学、とくに岩石学分野
- 4. 担当科目 共通教育科目、学部及び大学院専門科目
- 5. 応募資格
  - (1) 博士の学位を有する方
  - (2) 岩石学分野スタッフと協力しての講義・実験・実習等を担当でき、フィールド教育(野外実習や野外巡検等)に熱意をもって取り組める方。
  - (3) 当学科ではJABEE(日本技術者教育認定機構)認定プログラムに基づき教育を実施しておりま

す。当該学科のスタッフと協調して、このプログラムに沿って高度技術者となりうる人材の養成に積極的に取り組める方。

- 6. 着任時期 2013年4月1日
  - 7. 応募締切 2012年10月5日(金)(必着)
  - 8. 提出書類
    - (1) 履歴書(写真を貼付し、学位、連絡先(住所、電話番号、可能ならば電子メールアドレス、Webサイト)を明記すること。)
    - (2) 研究業績リスト(研究論文、著書等に分けて、査読の有無や印刷中、投稿中のものはその旨を明記すること)
    - (3) 業績リストに記した主要研究論文の別刷り又はコピー(5編以内)
    - (4) これまでの研究経過と将来の研究計画(A4判で2枚以内)
    - (5) 着任後の教育に対する抱負(A4判で1枚)
    - (6) 競争的外部資金の獲得状況
    - (7) 応募者について照会可能な2名の方の氏名と連絡先(所属・職名・勤務先住所・電話/Fax番号・電子メールアドレスなど)
- ※書類選考後、面接を行います。面接に伴う費用等は自己負担となります。

- 9. 書類送付先 〒753-8512 山口県山口市吉田1677-1  
 山口大学大学院理工学研究科地球科学分野  
 専攻長 宮田雄一郎  
 ※封筒に「地球科学分野教員応募書類在中」と朱書のうえ、「簡易書留」で郵送して下さい。  
 応募書類は返却しません。なお、応募書類に含まれる個人情報本選考以外の目的には使用しません。  
 問合せ先 大和田正明  
 TEL 083-933-5751  
 E-mail: owada@sci.yamaguchi-u.ac.jp

- 10. その他 当分野のスタッフ及び研究内容につきましては、当分野のホームページをご覧ください。  
 (http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/geo/index.html)  
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月9日送信しました)

○高校生のための先進的科学技術体験合宿プログラム

「サマー・サイエンスキャンプ2012」参加者募集  
 開催日:2012年7月23日~8月26日の期間中の2泊3日~5泊6日  
 対 象:高等学校、中等教育学校後期課程または専門学校(1~3学年)  
 会 場:大学、公的研究機関、民間企業等(63会場)

定 員：受け入れ会場ごとに8～40名(計989名)

※前年度平均応募倍率2.6倍

参加費：2000円(食費の一部に充当)。プログラム期間中の宿舎や食事は主催者が用意します。

※現地集合・現地解散です(自宅と会場間の往復交通費は自己負担となります)。

応募締切：2012年6月14日(木) 必着

主 催：独立行政法人 科学技術振興機構

共 催：受入実施機関

応募方法：Webより募集要項・参加申込書を入手し、必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/>

スマートフォンサイト：

<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/sp/>

応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局

(公財)日本科学技術振興財団 振興事業部内

TEL：03-3212-2454 FAX：03-3212-0014

E-mail：camp@jsf.or.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月17日送信しました)

## ○国際火山噴火史情報研究所 第1回公開シンポジウムのご案内

第1回公開シンポジウム「国際火山噴火史情報研究所は何を目指すか?」

主 催：福岡大学 産学官連携研究機関 国際火山噴火史情報研究所

日 時：2012年6月16日(土) 10:00～

場 所：福岡大学七隈キャンパス 18号館2階1821講義室

「あいさつ・趣旨説明」10:00～

1. あいさつ：西嶋喜代人(研究推進部長)
2. 趣旨説明：奥野 充(研究所長)  
「基調講演」10:40～
3. 金 奎漢(韓国・梨花女子大)：Alkali volcanic and plutonic magmatism in the Ulleungdo volcano, South Korea：Nd-Sr and He-Ar isotopic signatures of alkali volcanic rocks and felsic plutonic back arc basin rocks
4. 大木公彦(鹿児島大)：南九州の地質研究と大学博物館(昼食・休憩) 12:40～13:30
5. 中村俊夫(名古屋大・年代測定センター)：AMS14C年代測定の現状と今後の課題  
「海外研究」14:10～
6. 奥野 充(福岡大・理)：アリューシャン列島、アダック島のテフラ層序
7. 小林哲夫(鹿児島大・院理工)：南九州とフィリピン

のカルデラの比較研究

8. 田口幸洋(福岡大・理)：

フィリピン共和国、ブルサン火山に伴う地熱活動(温泉)の特徴

「データベース」15:20～

9. 高橋伸弥・鶴田直之(福岡大・工)・奥村 勝(福岡大・情報処理センター)：

噴火史データベースは「情報爆発」を起こすか?

10. 鳥井真之(熊本学園大)・西園幸久・稲倉寛仁(西日本技術開発)：

長岡信治氏のデータベース試作紹介-火山モノグラフ作成のステップとして

「防災およびアウトリーチ」16:10～

11. 西園幸久(西日本技術開発)：噴火史研究は、防災にどう役立つか?

12. 大野希一(島原半島ジオパーク推進連絡協議会)：

島原半島ジオパークでの事例発表

13. 総合討論 16:50～

18:00～ 懇親会

スカイラウンジ(文系センター棟16階)

(会費4000円の予定)

-----  
準備の都合もありますので、下記のフォームでご予定をお知らせくださると幸いです。

参加申込書

氏名

講演会 参加・不参加

懇親会 参加・不参加

申込書の送信先・連絡先：e-mail：okuno@fukuoka-u.ac.jp  
〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

福岡大学理学部地球圏科学科

電話 092-871-6631(内線：6289)。

ファックス 092-865-6030(理学部事務室)

奥野 充まで

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月4日送信しました)

## ○研究シンポジウム案内

研究シンポジウム開催のお知らせ

「地震及び火山噴火予知のための観測研究」を実施してきた研究グループは、社会が地震や火山噴火の研究に対して何を期待していると考えるか、その期待に応じていくため地震や火山現象の解明に向けてどのような研究を今後進めていくべきか、具体的にどのような研究が必要なのかについて議論するシンポジウムを7月5～6日に東京大学で開催します。



これまで、「地震及び火山噴火予知のための観測研究」に参加してきた人、こなかった人を問わず、広く研究戦略の提案を募集します。詳しくは、以下の URL をご覧ください。

[http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/nenji/h24\\_planning\\_workshop.htm](http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/nenji/h24_planning_workshop.htm)

以上

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 4 日送信しました)

○ワークショップのお知らせ (9/17-21 開催)

We will hold a Workshop on “ULTRA-DEEP DRILLING INTO ARC CRUST : genesis of continental crust in volcanic arcs”. It will be in Kona, Hawaii, September 17-21. Applications are invited from scientists at all career levels who are interested in any aspect of deep drilling in oceanic arcs. No prior drilling experience is required. Attendees will be selected by the Steering Committee to obtain a balance of scientific expertise. Please also tell any of your possibly interested colleagues or students about this workshop and encourage them to apply. <http://www.jamstec.go.jp/ud2012/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 8 日送信しました)

○第 13 回地震火山子どもサマースクール「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」

第 13 回地震火山子どもサマースクールのお知らせ

日本で最初に世界ジオパークに仲間入りした糸魚川ジオパーク。

糸魚川のすごいところはなんだろう？

どんなヒミツがひそんでいるのだろうか!?

きみはここは日本列島が東と西に引き裂かれた場所だと知っていた!?

この夏、地震や火山を研究している研究員や、大学や高校の先生たちが、日本各地から糸魚川ジオパークに集結します！

どうして、大地が引き裂かれたの!?

第一線の研究者のアドバイスをもとに、野外観察やゲーム、身近な材料を使った実験を楽しもう！

そして、糸魚川の大地のナゾを、全国の仲間と一緒に解き明かそう！

【日程】

2012 年 8 月 18 日 (土) 9 時 30 分～8 月 19 日 (日) 16 時 30 分

【集合・解散】

ヒスイ王国館 (JR 糸魚川駅前, 新潟県糸魚川市大町

1-7-11) ※ビーチホールまがたまで解散後、ヒスイ王国館まで送ります。

【活動場所】

ヒスイ王国館, ホテルホワイトクリフ, ビーチホールまがたま, 糸魚川ジオパーク各所

【宿泊】

ホテルホワイトクリフ

(糸魚川市大字山口 151-1 TEL. 025-558-2316)

【参加条件・人数】

小学校 5 年生～高校生 40 人 (全行程, 保護者の同伴なしに参加できる方)

【参加費用】

3,000 円 (宿泊費, 4 食の食費, 飲み物代, 保険代など含む。当日の受付時に集金します。)

【募集メ切】

2012 年 7 月 27 日 (金) [延長しました]

【応募方法】

ホームページ (<http://www.kodomoss.jp/ss/itoigawa/>) 上の申込用紙をダウンロードして必要事項を記入し、メールに添付するか、FAX で送付してください。

【記載事項】

1. 参加者氏名・フリガナ (本人の自書), 性別, 保護者氏名 (保護者記載)
2. 学校名・学年
3. 住所
4. 電話番号, 当日の緊急連絡先電話番号, FAX 番号, Email (保護者記載)
5. 健康状態・特記事項など (保護者記載)
6. 糸魚川ジオパークや, 地震や火山, 近くの山や川の風景について, 普段から疑問に思っていること, 不思議に思っていること, 研究者に聞いてみたいことなどを, 本人が書いてください。

詳細は、ホームページ (<http://www.kodomoss.jp/ss/itoigawa/>) から要項をダウンロードするか、事務局 (問い合わせ先) までご連絡ください。

【主催】第 13 回地震火山子どもサマースクール実行委員会 (公益社団法人日本地震学会, 特定非営利活動法人日本火山学会, 一般社団法人日本地質学会, 糸魚川ジオパーク協議会)

【事務局 (問い合わせ先)】

〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮 1-2-5

糸魚川ジオパーク協議会事務局

TEL 025-552-1511

FAX 025-552-7372

メール [geopark@city.itoigawa.niigata.jp](mailto:geopark@city.itoigawa.niigata.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 18

日送信しました)

### ○東アジア地震セミナーのご案内について

昨年5月の日中韓サミットにおいて日本、韓国、中国の3国が防災分野でも協力していくとの合意を受けて、昨年10月に中国北京で「東アジア地震セミナー」が開催されましたが、今年度は、韓国気象庁(KMA)がホストとなって韓国の済州島で10月29日―31日に標記セミナーが開催される予定です。内容の詳細は、現在担当者間で詰めているところですが、前回とほぼ同様、「巨大地震」、「地震・津波の警報(モニタリングシステム含む)」、「火山監視」、「情報の伝達」が想定されています。防災が主なテーマではありますが、3か国の研究情報交換が目的ですので、幅広にお申込みいただければ幸いです。火山については、中国、韓国ともに専門家が少なく、日本の研究について

いろいろ知りたいという希望が両国から寄せられております。

※旅費ですが、10名程度まで韓国国内の交通費+宿泊費についてはKMAより支弁されます。このうち最大5名までは航空機代も支援されますが、申込みの状況によっては、若手の研究者を優先させて頂きますので予め御了承ください。

参加を希望される方は、下記の連絡先宛にメールにて、発表題目、ご氏名、所属をご連絡くださいますようお願い申し上げます。大変申し訳ありませんが、8月31日(金)までに、ご連絡いただけますようお願いいたします。

最終的に発表をお願いするかどうかは、KMA(韓国気象庁)、CEA(中国地震局)、JMA(気象庁)の三者で協議しまして、選考させていただくことをご理解ください。その上で、予稿原稿の提出等詳細につきましてご連絡いたします。

気象庁地震火山部火山課長 山里 平

連絡先:

○気象庁地震火山部地震津波監視課 国際地震津波情報調整官 小泉岳司

E-mail: t-koizumi@met.kishou.go.jp

TEL: 03-3212-8341 (ex.4552)

○気象庁地震火山部管理課 調査官 平祐太郎

E-mail: taira@met.kishou.go.jp

TEL: 03-3212-8341 (ex.4519)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月6日送信しました)

### ○第33回猿橋賞募集のご案内

【女性科学者に明るい未来をの会】

1) 対象: 推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、「創立の主旨に沿った」優れた研究業績を収めている女性科学者

2) 表彰内容: 賞状、副賞として賞金30万円、1件(1名)

3) 応募方法: 当会のホームページ <http://www.saruhashinet/> から推薦書類をダウンロードし、A4用紙に印刷して、①推薦者(個人・団体、自薦も可)・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目②推薦理由(800字程度)、及び③研究題目に関連する主な業績リスト(指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです)を記入して、主な論文別刷5編程度(2部ずつ、コピーも可)を添え、5)の推薦書類送付先までお送り下さい。

4) 締切日: 2012年11月30日(必着)

5) 推薦書類送付先: 〒270-1147 千葉県我孫子市若松165-5 女性科学者に明るい未来をの会

(当会の本宛先は推薦書受付専用です。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい)

今後、募集要項に変更がある場合は、ホームページに掲載いたしますので、応募の際はホームページをご確認下さい。なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2013@saruhashi.net

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月19日送信しました)

### ○「朝日賞」候補者推薦のお願い

【朝日新聞文化財団】

「朝日賞」は、1929(昭和4)年に朝日新聞社が創刊50周年を記念して創設したものです。

人文や自然科学など、わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ、文化、社会の発展、向上に多大な貢献をされた個人または団体にお贈りしております。

広く各界の皆様から候補者のご推薦を頂戴したあと、さらに幅広くご意見を伺ったうえ、朝日賞選考委員会で慎重に審議し、受賞者を決定いたします。| 会員の方で、ご推薦する方がございましたら、8月20日(月)までに日本火山学会事務局にお知らせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月20日送信しました)

### ○平成25年度研究船利用課題の募集について

【独立行政法人海洋研究開発機構】

独立行政法人海洋研究開発機構では、平成25年度の

海洋研究の実施にあたり、弊機構が運営する「なつしま」, 「よこすか」, 「かいいい」, 「みらい」等を利用する課題の公募を行います。

募集期間は平成 24 年 6 月 27 日～7 月 19 日です。

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

[http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/public\\_offering/application/2013/](http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/public_offering/application/2013/)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 28 日送信しました)

○平成 25 年度地震研究所共同利用・特定研究課題登録のお知らせ

【東京大学地震研究所】

1. 登録事項：特定共同研究 A, 特定共同研究 B, 及び特定共同研究 C の研究課題
2. 登録資格：国立大学法人, 公・私立大学及び国・公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じるもの。
3. 登録方法：地震研究所共同利用ホームページから書式をダウンロードして提出下さい。

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

4. 登録期限：平成 24 年 8 月 17 日（金）
5. 提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1  
東京大学地震研究所研究支援チーム（研究協力担当）  
TEL：03-5841-5710 Fax：03-5689-4467  
E-mail：k-kyodo@eri.u-tokyo.ac.jp  
【共同利用 HP：URL】<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 1 日送信しました)

○ Subject：AGU Session への Abstract 投稿の呼びかけ  
火山学会会員の皆様

12 月 3～7 日に開催される AGU Fall Meeting において下記のセッションを企画しております。Abstract の投稿メ切は米国東部現地時間 8 月 8 日 23:59 で、日本標準時間 8 月 9 日 12:59 です。ふるって投稿して下さるようお願いいたします。

V56：Vulcanian Eruptions：Field Observations, Experimental Constraints, and Integrated Modeling

Description：

Vulcanian eruptions result from the impulsive decompression, fragmentation and ejection of magma residing in shallow volcanic conduits. Despite a general understanding of these eruptive processes, a characterization of the controlling parameters in different volcanic systems and a standard procedure for reliable forecasting are still missing. Recent

advances in multi-disciplinary monitoring and modeling have demonstrated the value of combining different but complementary techniques. We welcome innovative contributions on any of the above topics, with a particular focus on combined field observations, geophysical monitoring, laboratory experiments, and numerical models.

Invited Speakers：

Alejandra Arciniega-Ceballos, Universidad Nacional Autónoma de México Joachim Gottsmann, University of Bristol Takeshi Nishimura, Tohoku University

Conveners：

Haruhisa Nakamichi (nakamiti@nagoya-u.jp), Nagoya University Jacopo Taddeucci (jacopo.taddeucci@ingv.it), Istituto Nazionale di Geofisica e Vulcanologia Gregory Waite (gpwaite@mtu.edu), Michigan Tech University Akihiko Yokoo (yokoo@aso.vgs.kyoto-u.ac.jp), Kyoto University

Index Terms：

[8419] VOLCANOLOGY / Volcano monitoring

[8428] VOLCANOLOGY / Explosive volcanism [8434]

VOLCANOLOGY / Magma migration and fragmentation

[7280] SEISMOLOGY / Volcano seismology

Sponsor：Volcanology, Geochemistry, and Petrology (V)

Co-Sponsor：Seismology (S)

For additional information see <http://fallmeeting.agu.org/2012/> or contact one of the conveners.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 19 日送信しました)

○日本活火山総覧（第 4 版）原稿の連合大会での展示について（気象庁）

火山学会のみなさま

日頃から気象庁の火山業務の実施にあたり、ご支援ご協力を賜り、大変ありがとうございます。

現在、気象庁では、『日本活火山総覧（第 4 版）』の刊行準備を進めています。2005 年 3 月に現行の総覧（第 3 版）を刊行してから 7 年が経過し、桜島昭和火口からの噴火や霧島山（新燃岳）の噴火等の新たな火山活動があり、また、活火山の追加、新たな観測網の整備、噴火警報・噴火警戒レベルの導入等、様々な状況の変化も起こっていることから、これらを反映させた新しい総覧を年内には刊行したいと考えています。

総覧（第 4 版）の作成にあたりましては、多くの研究者の皆さまから多大なご協力をいただきつつ作業を進めておりますが、このたび、より広い範囲の皆さまからもご意見等を頂戴すべく、今週末から暮張メッセで開催される地球惑星科学連合大会の会場において、総覧の原稿

を展示することになりました。学会期間中はご多忙のことと存じますが、下記の展示ブースにお立ち寄りいただき、実際に手にとってご覧いただけましたら幸いです。

## 記

場所：日本地球惑星科学連合 2012 年大会会場(幕張メッセ国際会議場)

日本火山学会ブース(1 階 学協会個別デスク 8 番)  
気象庁ブース(2 階 団体展示 38 番)

期間：連合大会期間中(5 月 20 日(日)～25 日(金))

本件に関する照会先：

気象庁地震火山部火山課 噴火予知防災係 藤原  
Tel：03-3212-8341(内 4527)。

E-mail：y\_fujiwara@met.kishou.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 17 日送信しました)

## ○新燃岳特集号のご案内

このたび、Earth, Planets and Space で、新燃岳の噴火に関する特集号を企画しました。

[http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/pdf/announce/CallforPapers\\_SHM.pdf](http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/pdf/announce/CallforPapers_SHM.pdf)

来年 7 月に鹿児島で行われる IAVCEI までに on-line で公開し、海外への日本の火山学研究の現状の情報発信としたいと思えます。

EPS はこれまで Impact Factor が 1 以下程度と高くはありませんでしたが、東北地方太平洋沖地震の特集号をきっかけに Impact Factor が急に上がっていると聞いています。さらに、現在、海外への情報発信力を高めようとする科研費(研究成果公開促進)制度の見直しに合わせて、EPS を日本地球惑星科学連合の公式ジャーナルとして位置づけるように火山学会を含む 5 学会が連合に働きかけをしています。

今回は Guest editor として 3 名の外国の火山研究者を迎えていますので、内容的に手抜きのない特集号に仕上げられると考えています。

皆さんどうかふるって投稿下さい。

編集者：

中田節也\*(東大)、鶴川元雄(日大)

Chris Newhall(南洋理工大)、Steve McNutt(アラスカ大)

Tom Wright(ジョンホプキンス大)

市原美恵(東大)、下司信夫(産総研)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 31 日送信しました)

## ○「火山」57 巻 2 号・目次

「火山」57 巻 2 号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

・論説「最近 4000 年間の鳥海火山の爆発的噴火活動—  
湿原堆積物に保存された火山灰層の解析—」

著者：大場 司・林信太郎・伴 雅雄・近藤 梓・葛  
巻貴大・鈴木真悟・古木久美子

著者からの一言メッセージ：

「鳥海火山山腹の御田湿原に堆積した火山灰層を詳細に観察・分析し、火山灰層直下の土壌試料の年代測定を行いました。この結果に基づき鳥海火山における過去 4500 年間の噴火頻度と噴火様式の推移を議論しました。」

・書評「世界の火山地形 守屋以智雄著」

著者：小屋口剛博

・追悼文「小坂丈予先生のご逝去を悼む」

著者：平林順一・野上健治

=====

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 27 日送信しました)

## ○火山防災委員会の開催について

日本地球惑星科学連合 2012 年大会期間中に、火山防災委員会を開催いたしますので、ご参集いただけますと幸いです。

日本火山学会 火山防災委員会

世話人：荒牧重雄・中村洋一・藤田英輔

-----  
日本火山学会 火山防災委員会

平成 24 年 5 月 21 日(月) 17 時 30 分～19 時 30 分

幕張メッセ 103

1. 内閣府(防災担当) 新原俊樹氏 25 分

「我が国における火山防災の取組と火山防災エキスパート制度について」(仮)

質疑応答、討論など

2. 時事通信社 中川和之氏 25 分

「東日本大震災の時の官邸・政府の対応から学ぶ想定外大規模噴火災害への備え」

質疑応答、討論など

3. 報告事項

-----  
「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。

また、日本火山学会の会員でなくても、自由に会議に参加できますので、これらの話題に関心のある方にはお知らせください。

※本メールアドレスは送信専用のため、返信いただきましてもお問い合わせなどにはお答えできませんのでご了承ください。事務局へのお問い合わせは下記メールアドレスまでお願いいたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月15日送信しました)

#### ○ 2012 年日本火山学会秋季大会のお知らせ

日本火山学会 2012 年度秋季大会は長野県御代田町の「エコールみよた」で行われます。

開催地は、浅間山噴火口から南に9km、八ヶ岳を遠望し、国際観光都市「軽井沢」と北国街道の宿場町「小諸」とに挟まれた高原の町「御代田」となります。

今大会は、会場に隣接する浅間縄文ミュージアムとの共催となります。また、浅間縄文ミュージアムでは会期中に浅間山の特別展示を開催され、学会参加者は自由に観覧することができます。

現地討論会として浅間山および草津白根山での巡検旅行を企画しています。

詳細は「火山」57巻2号に掲載されますが、最新の情報は大会ホームページをご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/index.html>

##### 1. スケジュール

- 10月14日(日) 午前 講演会 午後 講演会
- 10月15日(月) 午前 講演会 午後 講演会・記念講演会・懇親会
- 10月16日(火) 午前 講演会
- 10月13日 現地討論会(浅間山)
- 10月13日 公開講座「火山学者と火山を作ろう! at 浅間」
- 10月13日 午後 火山防災シンポジウム
- 10月16~17日 現地討論会(草津白根山)

##### 2. 講演会場

エコールみよた(浅間縄文ミュージアムと同一建物内)  
(〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町 大字馬瀬口 1901-1)

##### 3. 参加料(講演予稿集込み)

会員:2,000円 (学生・満70歳以上は半額) 非会員:4,000円

※予稿集のみの販売も同額になります。学会事務局にお申し込みください。

発行は9月下旬を予定しています。

※学部学生・高校生等の参加料は無料ですが、予稿集は別途購入してください(1,000円)

##### 4. 講演申し込み・予稿原稿提出

[http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/2012\\_fallmeeting\\_application.html](http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/2012_fallmeeting_application.html)

(「火山」57巻2号に掲載されているお知らせでは講演申込ページのURLが間違っています。訂正してお詫びいたします。)

締切

郵送の場合(学会事務局着) 8月3日(金)

Web登録&予稿原稿PDFメール送信の場合

8月10日(金)午後4時

##### 5. 秋季大会連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-9-406

日本火山学会事務局 03-3813-7421

2012年度秋季大会実行委員会

E-mail: [asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月6日送信しました)

#### ○ 2012 年秋季大会現地討論会のお申込について

A:浅間山(10月13日)とB:草津白根山(10月16-17日)の2コースがあり、現在、参加申込受付中です。Bコースにはまだ余裕がありますが、Aコースはだいぶ埋まってきています。

参加ご希望の方は、先着順ですでお早めにお申し込み下さい。

詳しくは大会ホームページをご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/index.html>

なお、ホームページに掲載されています現地討論会申込みフォームは、Acrobatのバージョンによっては問題が生じるようです。申込みメールにテキストで、以下の必要情報をご記入下されれば結構です。

○参加希望コース(A, B, または、両コース)

○氏名

○所属

○住所

○連絡先:電話番号

○連絡先:メールアドレス

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月27日送信しました)

#### ○ 2012 年日本火山学会秋季大会 講演発表申込み切のお知らせ

長野県御代田町において、10月14日~16日の日程で開催される日本火山学会2012年度秋季大会の学術講演

申込のメ切が近づいてきました。発表を希望されるかたは、忘れずにお申し込みください。また例年メ切直前にはwebが非常に混雑しますので、早めのお申し込みをお願いいたします。

Web登録 & 予稿原稿 PDF メール送信のメ切

8月10日(金)午後4時

[http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/2012\\_fallmeeting\\_application.html](http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/2012_fallmeeting_application.html)

今年度も「学生優秀発表賞」の表彰を行います。学生の皆さんの積極的な発表を期待します。

大会の概要は以下のとおりです。詳細につきましては大会ホームページをご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/index.html>

#### 1. スケジュール

- 10月14日(日) 午前 講演会 午後 講演会
- 10月15日(月) 午前 講演会 午後 講演会・記念講演会・懇親会
- 10月16日(火) 午前 講演会
- 10月13日 現地討論会(浅間山)
- 10月13日 公開講座「火山学者と火山を作ろう! at 浅間」
- 10月13日 午後 火山防災シンポジウム
- 10月16~17日 現地討論会(草津白根山)

#### 2. 講演会場

エコールみよた(浅間縄文ミュージアムと同一建物内)  
(〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町 大字馬瀬口 1901-1)

#### 3. 参加料(講演予稿集込み)

会員: 2,000円(学生・満70歳以上は半額)  
非会員: 4,000円

#### 4. 懇親会

日時: 10月15日(月曜日) 18時00分~20時00分  
会場: 軽井沢プリンスホテル(JR軽井沢駅南)

参加費: 一般 5,500円, 学生 3,500円(予定)

5. 現地討論会 A: 浅間山(10月13日)とB: 草津白根山(10月16-17日)の2コースがあります。参加ご希望の方は、先着順ですでお早めにお申し込み下さい。

#### 6. 公開講座

日時: 10月13日(土曜日) 午後(予定)

会場: 浅間縄文ミュージアム・工作室

参加費無料・要事前申込

#### 7. 火山防災シンポジウム

日時: 10月13日(土曜日) 14時30分-17時30分

場所: エコールみよた あつもりホール

参加費無料・参加申込不要

#### 8. 秋季大会連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9-406

日本火山学会事務局 03-3813-7421

2012年度秋季大会実行委員会

E-mail: [asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月3日送信しました)

#### ○ 2012年秋季大会・現地討論会 A コース満員御礼

A: 浅間山(10月13日)は、定員に達しましたのでお申込みを締め切りとさせていただきます。

B: 草津白根山(10月16-17日)は、まだ余裕がありますので参加ご希望の方はお早めにお申込みください。

詳しくは大会ホームページをご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月3日送信しました)